



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5349円+税
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2020

10月27日
(火曜日)

小売り事業に乗り出すENG

中古車輸出を手掛けるENG（牧野新一郎社長、東京都港区）は、同社としては初の小売り拠点を12月に千葉県野田市に新設し、中古車小売りに乗り出す。同社はマレーシアを主力の仕向け地として中古車輸出事業を展開しており、輸出事業で培ったノウハウを仕入れや値付けに生かして競争力を高め、新規顧客の開拓につなげたい考えだ。牧野社長に話を聞いた。（石田 航大）

牧野 新一郎社長に聞く

「なぜ小売りの事業を始めるのか」
「マレーシア向けの中古車輸出事業では、市場の値動きに敏感な海外顧客との商売で適正な値付けが求められている。」

「これまで中古車オークション（A.A.）や小売りの相場を先読みしながら輸出販売車としての価格設定をしてきたノウハウを国内小売りにも生かせる」と考えた。競合他社にない価格面のメリットを国内の消費者に訴求できることを強みに、新たな事業の柱に育てていく。

輸出で培った値付けに生かして ノウハウ

「小売りの拠点について」
「車両保管拠点『野田ヤード』の近隣に設けた。店頭には10〜20台ほど展示する予定だ。実店舗を持つことで顧客との接点を保ち、困り込みにつなげていく。」

「小売りの開設に合わせる」
「小売りの店舗の展開」
「今後の小売りの店舗の展開」



「当面は野田の1拠点を運用していく。今後は同様に車間ヤードを置いていく。大阪または本社と野田、大阪の各拠点に買い取り専門スタッフを配置している。今回立ち上げる小売りの店舗も買い取りでユザーと直接関わるための実」

当面は野田の1拠点 大阪、中部への進出視野

「2015年に始めた。Aだけでなく、買い取りにも乗り出すことで仕入れルートを増やす狙いがある」
「買い取り拠点は、本社と野田、大阪の各拠点に買い取り専門スタッフを配置している。今回立ち上げる小売りの店舗も買い取りでユザーと直接関わるための実」

客を対象としている。交通機関が発達上で家族の人数構成が多く、ミニバンやSUVの引き合いが高い。マレーシアへの輸出では普通乗用車は車齢5年以内の規制があるため、トヨタ『アルファード』『ヴェルファイア』など高年式の中古車を中心に扱っている。

「19年度の取り扱い台数は約7千台だった。マレーシアの輸出市場でも大きなシェアを保っており、今後も国内小売りに生かして輸出台数のシェアも拡大していきたい」

「今後、仕向け地の拡大は『新型コロナウイルス感染症拡大の影響が落ち着いた後の状況を見ながらアフリカ、アジアなどで可能性を模索していく』

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2020年10月27日 日刊自動車新聞 5面 ©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。